

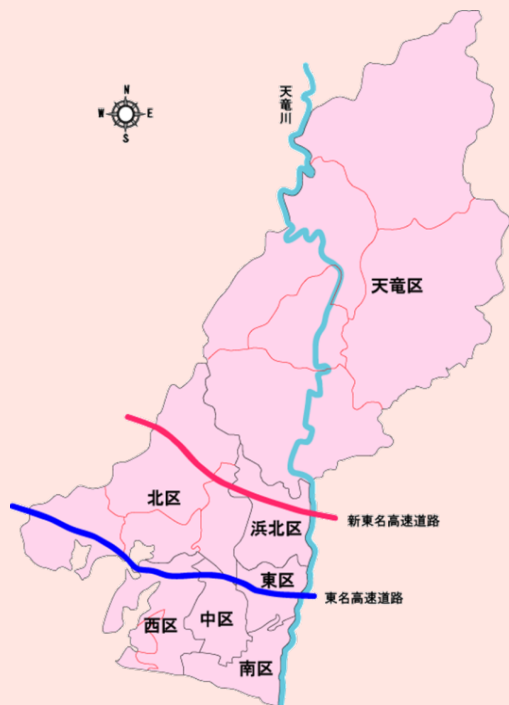
浜松市

当事者同士、支援者同士、当事者と支援者
がつながる地域

浜松市では、精神障がいの有無に関わらず、安心して地域で生活ができるよう、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進連絡会を令和2年10月の設置しました。
当事者同士、支援者同士、当事者と支援者同士をつなげる、つながる地域を目指してします。

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

浜松市



取組内容

- ・「浜松市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進連絡会」を設置し、代表者会議を開催（年2回）
- ・各ワーキングの取組み内容や研修会等の企画や助言を行う企画会議の開催（年12回）
- ・事例検討ワーキング（H30～毎月第4水曜）
- ・ピアワーキング（R2～毎月第3水曜）
- ・実態調査ワーキング（R4～毎月）
- ・アウトリーチワーキング（R1～R3 毎月）
- ・住まい方ワーキング（R1～R3 毎月）

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数（R5年4月時点）	1	か所	
市町村数（R5年4月時点）	1	市町村	
人口（R5年4月時点）	790,580	人	
精神科病院の数（R5年4月時点）	11	病院	
精神科病床数（R5年4月時点）	1,727	床	
入院精神障害者数 （R3年6月時点）	合計	1,357	人
	3か月未満（％：構成割合）	343	人
		25.3	％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	221	人
		16.3	％
	1年以上（％：構成割合）	793	人
58.4		％	
	うち65歳未満	281	人
	うち65歳以上	512	人
退院率（R2年6月時点）	入院後3か月時点	69.7	％
	入院後6か月時点	83.1	％
	入院後1年時点	85.4	％
相談支援事業所数 （R5年4月時点）	基幹相談支援センター数	1	か所
	一般相談支援事業所数	13	か所
	特定相談支援事業所数	40	か所
保健所数（R5年4月時点）	1	か所	
（自立支援）協議会の開催頻度（R4年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	2	回／年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R5年4月時点）	都道府県	有・無	1か所
	障害保健福祉圏域	有・無	— / —
	市町村	有	1 / 2

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進連絡会（代表者会議）

※活動に対する評価



企画会議

※企画、ワーキングへ提案



事例検討ワーキング メンバー10名（精神科病院：NS、OT、PSW、委託 相談、計画相談、基幹相談）	長期入院者等に対する事例検討会を実施
ピアワーキング メンバー概ね6～7人（当事者、計画相談）	令和2年から、「あすなる会」の設置。毎月1回開 催し、当事者活動を検討している。
実態調査ワーキング メンバー5人（精神科病院：PSW、委託相談）	地域アセスメントのために、実態調査を行ってい る。

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- ・平成26年度 「退院促進支援事業」開始
- ・平成27年年1月～平成29年2月 自立支援協議会の専門部会として地域移行部会を設置・運営
- ・平成29年9月～平成31年2月 自立支援協議会の専門部会として地域移行・定着部会を設置・運営
- ・平成29年度～令和2年度 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業の参加
- ・平成31年度 自立支援協議会の専門部会として「退院して地域で暮らそう部会」を設置・運営
- ・平成31年～精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の国庫申請
- ・令和2年10月～「浜松市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進連絡会」を設置

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

<令和4年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R4年度当初)	実績値 (R4年度末)	具体的な成果・効果
①代表者会議	2回	2回	ワーキングや市の今後の活動に対する評価をし、課題抽出を行った。
②研修会	1回	1回	開催することで、他機関との顔の見える関係構築の役割を担った。
③事例検討ワーキング	ファシリテーターの養成	3名のファシリテーターの養成	ファシリテーターの養成の研修会を開催、参加者の中から、事例検討会のファシリテーターを担ってもらい経験の場とした。
④ピアワーキング	交流会の実施	交流会の実施	「NPO法人ころ」との交流会を開催(WEB)。先進的なピア活動を知る機会になった。
⑤実態調査ワーキング	2調査の実施	1調査の実施	当事者及び事業所職員へピアサポートの実態調査を実施し、現状分析した。

5

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

浜松市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進連絡会の代表者会議には、各団体から16名の委員が参加しており、様々な視点での意見を受け、議論を行っている。また、当事者グループ「あすなる会」も設置しており、当事者の意見を踏まえ活動を検討している。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
医療、福祉、保健の連携	医療、福祉、保健の事例を通じた連携強化	行政	連携の場の調整
		医療	連携の場への参加
		福祉	連携の場への参加
		その他関係機関・住民等	—
ピアサポートの理解促進	当事者と支援者へピアサポートの普及啓発	行政	普及啓発の場の調整
		医療	普及啓発の場への参加
		福祉	普及啓発の場への参加
		その他関係機関・住民等	当事者の体験発表

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和5年度末)	見込んでいる成果・効果
①連携の場の開催	0回	5回	意識改革
②交流会	0件	1回	当事者の普及啓発
③研修会開催	0回	1回	退院後支援の普及、他機関と連携強化

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

当事者や家族を始め、各団体の代表者が代表者会議に参加しています。各ワーキングについても精神科病院や委託相談、計画相談の職員が参加し、検討している。

所管部署名	所管部署における主な業務
障害保健福祉課	通報業務

連携部署名	連携部署における主な業務
精神保健福祉センター	ひきこもりや依存症等の特定相談

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	企画会議や事務局会議で浜松市精神保健福祉センターと今後の動きを議論、共有。	強み：相談内容により、所管部署と連携部署で、精神疾患のある方への介入の部署が異なるため、情報共有ができる。 課題：メンタルヘルスについて様々な部署との連携
医療	事例検討WGへWGメンバーとして市内の精神科病院5機関から各機関1名ずつ参加。	強み：医療機関の実情を理解できる。 課題：医療と福祉で、見解の差がある。
福祉	委託相談や計画相談が事例検討WG、ピアWG、実態調査WGへ参加。	強み：地域の視点を活かすことができる。 課題：医療機関との連携
その他関係機関・住民等	ピアWGへ当事者の参加(3~4名)	強み：当事者の視点を活かすことができる。 課題：当事者の強み等が広まっていない。

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
浜松市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進連絡会	(1)学識経験者 (2)保健・医療関係者 (3)障害福祉関係者 (4)高齢者福祉関係者 (5)地域福祉関係者 (6)当事者 (7)その他必要と認められる者	年2回	各ワーキング等からの報告及び評価	課題:委員が評価できる指標が不明瞭 強み:委員16名が参加するため、多面的な意見が出る。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

【悩み・アドバイザーへの相談内容】

将来的にどこを目指すのか(全体目標)、そのための中期目標や今年度の目標が当市の課題と感じています。また、数値目標があると、評価指標ができ、評価しやすいと感じています。

8 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R5年6月	退院後支援の実態調査	市内の6病院(指定病院)へ「精神科病院の退院時における地域援助事業者との連携状況」について調査を予定
R5年8月1日	研修会開催	退院後支援をテーマに、支援者間で顔の見える研修会を予定
R5年9月6日	第1回代表者会議	半年間の活動についての報告・評価
R5年9月20日	ピア交流会の開催	
R6年2月	第2回代表者会議	市内の当事者と事業所職員に対し、ピアサポートの理解促進を目的とした交流会を予定
毎月第2(水)	企画会議	半年間の活動についての報告・評価
毎月第3(水)	あすなろ会	
毎月第4(水)	事例検討ワーキング	